

会長

## 芳井 敬一

大和ハウス工業株式会社  
代表取締役社長



平成31年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。  
本年も当協会の活動に対しまして、格別のご厚情を賜りますよう厚くお願い申し上げます。

昨年は自然災害が相次いで発生し、各地で多くの被害をもたらしました。お亡くなりになられた方々には謹んで哀悼の意を表し、被害に遭われました方々には心よりお見舞いを申し上げ、被災されました地域の日も早い復旧、復興が進まれるようお祈り申し上げます。

西日本を中心とした「平成30年7月豪雨」においては、岡山県、広島県及び愛媛県から、また、「平成30年北海道胆振東部地震」においては、北海道からの建設要請をうけ、規格建築部会の会員会社が計556戸の応急仮設住宅、144床の福祉仮設住宅を昨年末までに建設し、被災者の方々にご入居いただく事が出来ました。建設にご尽力いただいた関係の皆様へ心よりお礼申し上げます。

さて、昨今の日本経済は、全般的に緩やかな回復基調を示していますが、一方、米中貿易摩擦など不安定な世界経済の影響が国内経済に与えることも懸念されています。

住宅着工戸数を見てみますと、昨年後半から持家が若干増加してきているものの、昨年全体では持家、貸家で対前年比マイナスとなっており、厳しい状況が続いています。

本年は、10月に「消費税10%への引き上げ」が予定されておりますが、昨年末、政府より、住宅ローン減税の適用年数の3年延長や次世代住宅ポイント制度の創設などの対策を決定していただきました。ご尽力いただきました皆様には心より感謝申し上げますとともに、当協会としても、これらの施策を正しくスピーディーにお客様に伝え、消費税引き上げ導入前の駆け込み増や、導入後の反動減の緩和に取り組み住宅業界の需要安定化に寄与できるようにしていきたいと考えております。

現在、日本の住宅ストックは約6000万戸、そのうち世帯が居住している住宅で耐震性の低い住宅が約900万戸、断熱性の不十分な住宅が約2000万戸と、改善が必要な住宅ストックがまだ多数存在しています。これらの住宅ストックを品質、性能の高い優良な住宅ストックに建替え、あるいはリフォームを行い、安全・安心で快適な住生活を実現していくことが、大切であると思います。当協会会員会社は、時代のニーズを先取りしたトップランナーとして、長期優良住宅やZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)をはじめとする品質、性能の優れた住宅を積極的に供給しています。「良質な建物をお客様に引き渡すこと」、「建物がある限りフォローしていくこと」という2つの大切な「約束と使命」を我々プレハブ建築協会が果たしていくために、各種の認定事業、人材育成事業を推進し、関係方面へ働きかけを行うなど、積極的な支援を行ってまいります。

また、南海トラフ巨大地震や首都直下地震などの発生が懸念される中、大規模災害に対する備えとして、応急仮設住宅の建設をはじめ、復旧・復興活動が迅速に行えるよう、引き続き、各会員会社との協力体制を準備・構築してまいりたいと思っております。

本年の干支「己亥(つちのとい)」は、「成熟した組織が足元を固め、次へのステージに向けた準備期間の年」と言われております。本年は「統一地方選挙」、「天皇陛下ご退位」、「新天皇陛下のご即位」、「G20」、「参議院選挙」、「消費税10%への引き上げ」、「ラグビーワールドカップ」など、大きな行事、イベントが控えており、さらに2020年の「オリンピック・パラリンピック」、2025年「大阪万博」へと、次のステージへの準備の年の始まりであり、日本がさらにはばたいていく年になりますことを期待しております。

「すべては準備で決まる。」私はこの言葉を胸に仕事をしております。「新しい年」を迎えるにあたり、プレハブ建築協会として皆様と共に一歩一歩着実に協会事業を進めてまいりたいと思っております。

今後とも会員の皆様と協力し共に発展していけるよう、微力ではございますが、努力してまいりますので引き続きご支援、ご指導を賜りますよう、よろしく申し上げます。

最後になりましたが、会員皆様のご健勝とご多幸を心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。